地域再生を目的としたインターネットテレビ局の活動報告

北風裕教*　神田全啓**　岡宅泰邦***

An Activity Report of the Internet TV Station for Local Reactivation

Hironori KITAKAZE, Masahiro KANDA and Yasukuni OKATAKU

Abstract

The computer club of Oshima National College of Maritime Technology has opened the “Oshima National College of Maritime Technology’s Internet TV Station“, in order to revive Suo-Oshima town in connection with the regional revival project, “Shima-square”. The TV station uploads the information of the town’s successful entrepreneur, the sightseeing spots, and the hidden charm of the town which is known to only a few people in the college HP.

In this paper, we describe process to the TV station establishment and results of the activity to revive the town. Furthermore, we report the future administration method and the problems to be solved of the Internet TV station.

Key words: Local reactivation, Co-operations between industry and university, Internet TV Station

1. 緒言

周防大島町を「元気のある島」にするために，大島商船高等専門学校（以下、本校と呼ぶ）は，外部資金である科学技術振興調整費を用いて地域再生プロジェクトの「山海空コラボレーションみかん島再生クルー」（以下，愛称の「島スクエア」と呼ぶ）を進めている．島スクエアは周防大島町で起業を希望する方に対して，無料で起業家養成講座を行い支援するプロジェクトであり，起業のための高い知識を修得した受講生を輩出することを目的としている．特に，周防大島町へのUJIターン希望者に対して講座を行うことができれば，新規企業が周防大島町に創出されるだけでなく，新たな雇用が生まれる．最終的に，この活動を通して周防大島町全体の交流人口の増加および人口増加を狙う．しかしながら，遠隔地に在住するUJIターン希望者を把握することは非常に難しく，周防大島町の様々な情報を発信するだけの予算を計上することができない問題があった．これは，東京や大阪などの遠隔地に対する広報活動を断念せざるを得ないことを意味する．

本研究は，この問題を解決するために，本校コンピュータ部によって周防大島町を題材としたインターネットテレビの番組を制作し，ホームページ上へアップすることで，広報活動を行う．アクセス地域やアクセス数，アクセス時間などの確認を行い，今後の島スクエアの活動としてインターネットテレビを利用した周防大島町の情報配信が効果を上げるかを検討した．アクセス状況の分析はGoogle Analyticsを用いて行った．

島内で起業し成功した事業主や島内の観光地・観光場所，島内の人しか知らない隠れ情報などの番組を制作し，ホームページ上にアップすることで周防大島町の魅力を全国へ発信した結果，県内の方だけでなく県外の方が番組を鑑賞している事が明らかになり，今後この方針で事業を進めることで，安価で効率良くUJIターンの広報活動が行える事が示唆できたので，これまでの経緯，活動内容・工夫した点などと合わせて報告する．また，テレビ局の運営の在り方，問題点を考察したので報告する．

2. 大島商船インターネットテレビ開局の経緯

『大島商船インターネットテレビ』は，現在島スクエアとの連携事業として活動を行っているが，その出発点は『金魚島インターネットテレビ（大

*商船学科 **一般科目　***情報工学科
2010年9月27日受付

島商船局)』であり，独立して開局することで運営を開始した．詳しい経緯について以下に示す．

2．1　金魚島インターネットテレビ（キンテレ）

本校が地域再生に力を入れ本格的に活動し始めた平成 20 年度よりも 1 年前の平成 19 年度に，コンピュータ部の部員は周防大島町の個人事業主らが立ち上げた『金魚島インターネットテレビ』(以降，キンテレと呼ぶ）を補助する形で『キンテレ（大島商船局）[1,2]』の事業を始め，地域再生に向けての情報発信を始めた（図 1）．キンテレは，現在の『大島商船インターネットテレビ』の先駆けともいえるインターネットテレビ局である．

図 1 ：金魚島インターネットテレビ

本校学生がキンテレ（大島商船局）で訪問した取材先一覧を表 1 に示す．

活動当初，本校学生は校内情報の発信を行うことで，番組制作技術を身に付けた（表 1 の No.1～No.6)．技術の習得がある程度得られた段階で，県内外の地域再生に成功している事例を取材し，その活動や取り組み方法について話を伺ってきた（表 1 の No.7～No.22)．これにより，取材の方法や機材の取扱法，映像の編集方法，インターネットへのアップの方法など基本的な操作について実践的に技術を身に付けた．

キンテレ（大島商船局）の番組の方針は，視聴者が周防大島町在住の方と考えて，県内外において地域再生に成功している方法を取材し，番組を通して周防大島町の方々に再生法を認知してもらうことにあった．これにより，他の成功している再生プランを模倣することで，地域生成を目指した．

それに対し，現在の大島商船インターネットテレビは，視聴者が UJI を希望する周防大島以外の方と考えており，周防大島の内容を題材に番組を全国へ発信する点は，番組方針として逆である．

表 1　キンテレ（商船局）取材先一覧

No.1	大島商船・110 周年記念式典(1,2,3)
No.2	大島商船・商船祭(1,2,3,4)
No.3	大島商船・商船学科航海実習(1,2)
No.4	大島商船・2008 年 3 月卒業式
No.4	大島商船・2008 年 4 月入学式
No.5	大島商船・ラグビー部取材風景
N0.6	留学生へのインタビュー(募金活動)
No.7	地域再生（島スクエア活動）(1,2,3)
No.8	宮島観光協会（広島・宮島）
No.9	紅葉堂（広島県・宮島）
No.10	杓子の家（広島県・宮島）
No.11	フジミツ株式会社（山口県・長門市）
No.12	金子みすゞ記念館（山口県・長門市）
No.13	萩商工会議所（山口県・萩市）
No.14	天龍窯：萩焼（山口県・萩市）
No.15	杣の里よこみち（島根県・津和野町）
No.16	津和野ボランティアガイドの会
No.17	伝統工芸石州和紙会館（津和野町）
No.18	貸自転車かまい（島根県・津和野町）
No.19	唐戸市場（山口県・下関市）
No.20	歌野清流庵（山口県・下関市）
No.21	下関観光コンベンション協会
No.22	いちごファームさかもと（下関市）

2．2　島スクエアの活動

本校が位置する周防大島町（2004 年 10 月に 4 町が合併）は，昭和 22 年には 64,928 人であった人口が，平成 22 年 8 月には 19,872 人となり，63 年で人口が 3 分の 1 以下に減少した．過疎化・少子高齢化の問題を持つ島である．本校は平成 20 年に文部科学省科学技術振興調整費・地域再生人材創出拠点の形成プラグラムに採択された．これは,「山海空コラボレーションみかん島再生クルー」（島スクエア）と題して企画した地域再生案である．周防大島町で起業を考える人を対象に，本校で起業家に向けた講義を無料で実施し，周防大島の資源を用いた効果的な起業方法を学ぶことで，実践で活躍できる人材を創出していくことを目的としている．起業家が事業を成功させ，新たな雇用を創出することで，地域再生へ繋げ,「元気のある島」へと発展させる．現在では周防大島町は，島スクエアの活動を地域再生計画に取り入れており，第一次産業を多面的に活用し，観光を基軸とした複合的な産業を創造するため大島商船高専と

連携し，新たな地域資源を創出している．また，情報を活用し起業できる人材の育成を行い，交流人口の拡大による産業の再建を図っている．島スクエアの活動は，今年度で3年目となり，基礎講座の起業家養成基礎コース，応用講座の商品開発起業コース，Web・動画クリエイター養成コース，体験型観光起業コースの 4 講座を実施している．また，小学生・中学生を対象にした島スクエア Jr. や廃校活用，UJI ターン支援など事業展開を進めてきた．

島スクエアの活動は3年目になり徐々に周防大島町内の人々には浸透してきて，「島スクエア」という言葉を聞けば，本校が地域再生のために町と連携して起業家支援を行っていると言うことは，住民に理解してもらえるようになってきた．

しかしながら，これらの本校の活動や町の活動は，3 年が経過し周防大島町内の人々には浸透してきているが，町外の人などは，ほとんど知られてはいない．これは，広報的な活動が非常に弱いことを示しており問題となってきた[3]．UJI ターン希望者が特定できれば，広報誌などを送付し，効果的な活動が可能であるが，遠隔地在住の UJI ターン希望者を特定することは非常に困難であり，広報活動費用としてそれらに利用できる予算もほとんどない状況であった．パンフレットやチラシを作成して UJI 支援関連団体へ配布することも検討されたが，予算の面と継続性の面で限界があった．そこで安価で多くの情報発信を行えるインターネットを活用した広報活動ができないか検討が重ねられた．平成 21 年に，問題解決を行う手段としてこれまでの活動実績のあるキンテレ（大島商船局）による番組放送が議題に上がり，コンピュータ部と検討を重ねて平成22年から連携し，『大島商船インターネットテレビ』として独立運営することが決定した．しかしながら，活動予算の面で問題が生じた．

2．3「はつらつ長州」寄附金の申請

島スクエアの予算は，小額であっても学生への取材の交通費や雑費などを支出することはできない問題があった．コンピュータ部の予算も限りがあり利用することが困難であった．そこで，島スクエアと連携し，周防大島町の活性化を目的としたテレビ番組を学生が制作し運営を行う予算申請『大島商船インターネットテレビ局の開局』を西京銀行の「山口県応援ファンド・はつらつ長州」寄附金へ行い，平成21年に採択され22年度から利用できるようになった（図２）．寄附金は，山口県の産業振興，人材育成に寄与する研究開発事業，新商品開発事業，地域活性化事業，人材育成事業等に寄附されるものであり，本件では，機材は揃っているので，交通費，人件費（謝金），事務費，諸経費として利用することとなった．

地域再生を行うためには，交流人口の増加だけでなく，定住者の確保が必要である．なお且つ，島スクエアで問題となっている UJI ターン希望者へ情報を発信するための番組構成が必要である．しかしながら，これらの条件を全て満足する番組を制作することは，時間的余裕のない学生には困難であることから，番組は事前に目的に応じたテーマとなっているか確認をし，月に１度（毎月 15 日ごろアップ）放送することにした．以降はホームページ上に掲載して，いつでも鑑賞できるようにした．また，新しい情報などは，ブログを利用して随時更新する方式を採用した．

図２「はつらつ長州」寄附金贈呈式の様子

3．番組制作

西京銀行「山口県応援ファンド・はつらつ長州」寄附金において，番組制作は年間 12 本（1 本／月）であり，その他にブログによる活動報告（随時）を行う．以下に大島商船インターネットテレビ局の番組について詳しく紹介し，番組制作における学生と教員の役割，取材交渉，番組構成，現地での取材，番組編集，ホームページのアップまでの番組制作過程について詳細を示す．

3．1 大島商船インターネットテレビ局の番組

番組は，周防大島町の活性化を目指すためのもので，「こんな町に住んでみたい！」，「こんな町に遊びに行きたい！」，「こんな仕事についてみたい！」の３種類の番組の内容とする．各々の番組についての詳細を以下に示す．

3．1．1「こんな町に住んでみたい！」

番組「こんな町に住んでみたい！」では，身近な施設・店舗等に関して，良い点や改善してほしい点など施設を利用する上で気になる情報を分かりやすく取り上げた番組とする．UJI ターン者の増加を目的とする．

3．1．2「こんな町に遊びに行きたい！」

番組「こんな町に遊びに行きたい！」では，自然豊かな周防大島町の観光地や観光資源を取材し，旅行で周防大島町に遊びに来てもらえるような番組とする．周防大島の人しか知らない穴場などを学生目線で取材することで，これまで年配の方が中心であった観光客から若者も集まる観光地にすることを目的とする．

3．1．3「こんな仕事についてみたい！」

番組「こんな仕事についてみたい！」では，周防大島町で起業した人や昔から受け継いできた伝統技術などを取材し，これまでの経験で苦しかったことや幸せだったことなどに迫る番組とする．UJI ターン者の増加を目的とする．

3．2　学生および教員の役割

番組制作には直接教員は携わることなく，学生が主体となって行う．学生と教員の役割を表２に示す．

表２　学生と教員の役割

学生	指導教員
総監督	学生の指導
ディレクター	取材補助
カメラマン	取材引率
音響関連	使用機材･システム管理
映像編集	その他補助・資料作成

大島商船インターネットテレビ局の指導教員は 3 名であり，各教員にコンピュータ部の学生を配置し，3 班構成とした．したがって，1 番組は 3 カ月分の時間を使って番組を制作できる期間を確保している．番組構成については　各班に任せて作成することになるが，一貫したストーリーを持たせるために，各番組のはじめの 3 分程度は，コンピュータ部による芝居を入れることで統一感を持たせることにした．学生の意見で，若者でも番組を鑑賞しやすいように多少コメディー的要素を導入した．

3．3　取材交渉

取材場所は，部員が案を出し合い，地域再生の目的を達成することができるか等を検討したうえで決定した．番組構成等を考慮しながら，取材先の決定，取材場所，取材日，取材時間など多くの必要項目を決定してから，学生自らで電話を使って交渉を行った．ただし，依頼先によっては，学生対応ではなく教員の対応を希望する企業や，電話ではなく直接会って事前交渉を行いたいと言う企業もあった．これらの場合に限っては教員が事前に取材交渉を行った．

3．4　番組構成

番組構成は，取材先が決定して取材交渉を行うまでにある程度作成しておき，取材交渉の際には簡単な説明を行えるようにした．このようにした理由は，先にイメージしたストーリーをなるべく崩さないようにする為であり，欲しい映像を必ず修得するようにするためで，事前に取材先に構成を伝えた方が，番組制作が楽にでき，取材先の負担も少なくて済むというこれまでの経験からである．

大島商船インターネットテレビの番組において一般的な番組の構成は，次の①から⑥の順ある．事前準備においてはこれらのシナリオが分かるような簡単な絵コンテと質問内容の文書を作成した．

①オープニング＋コンピュータ部の芝居
②取材場所の説明
③取材先の紹介
④取材者への質問と改善方法など説明
⑤コンピュータ部の芝居
⑥エンディング

取材交渉までに質問内容を決定することで，現地での取材日までに，多くの情報を掲載できるように事前準備をしておいてもらった．また，ビデオ映像で使えそうな場所等をメールや電話で事前に連絡をしてもらった．

3．5　現地での取材

現地での取材は，番組構成（絵コンテ・ストーリー）に従い作成する．しかしながら現場においては，想定していた映像は簡単に撮影することはできず，その現場，現場において状況が異なるため，学生プロデューサーの判断に応じて臨機応変

に構成の変更を行った．

図３に大島商船インターネットテレビの第２話で取材を行った「げんきや和（なごみ）」の取材の様子を示す．この取材では，げんきや和（なごみ）の町歩きの活動の様子のみを撮影する予定であったが，午後から行われた「竹の子堀り」も急遽参加させて頂いた．小さい子が一生懸命竹の子をクワを握って掘り出す様子が撮影でき，体験型観光をイメージできる非常に良い映像を撮影することができた．このような映像は，編集の際に積極的に採用した．

図３　げんきや和（なごみ）の取材の様子
（上：町歩きの路上撮影，下：主催者夫妻の取材）

３．６　番組編集

番組の編集は，本校の電子情報実験室と数理計画実験室で行う．編集の様子を図４に示す．撮影に用いたビデオカメラはアスペクト比 16：9 のハイビジョン対応のカメラである．デジタルビデオカメラで撮影した映像を専用のソフトを用いて PC 上へ転送して必要箇所を抽出し，各実験室の PC にある Adobe Premiere を用いて編集作業を行う．

番組は 10 分から 15 分程度とした．これは，金魚島インターネットテレビの番組を作成していた際に，時間が 20 分程度の番組と 10 分程度の番組では 10 分程度の番組の方が視聴率において 2 倍以上の高い結果であり，長すぎる番組は視聴者の負担が大きく視聴率も悪いというこれまでの結果からである．

Adobe Premiere を用いて編集した後，Adobe Flash の動画形式へ変換して保存する．この動画を教員が確認を行った後にホームページへアップした．これらの作業に要する時間は，学生が放課後１日２時間程度の作業をして撮影作業から編集作業を合わせて約１週間程度が必要であった．編集では，言葉で良く聞き取れない部分や強調して表現したい部分に関しては字幕や映像を入れるなどの工夫を行っている．教員側の確認の際に，企業秘密の箇所がそのまま利用されてあり，大幅な改善を要求することも幾度かあったが，その都度学生によって修正が施された．

図４　番組編集の様子
（上：オープニングの芝居，下：編集作業）

３．７　ホームページへのアップ

大島商船インターネットテレビのホームページは，本校商船学科の電子情報実験室（北風研究室）のホームページ上に存在する．トップページ内の

タブに「地域再生プロジェクト」があり，その中の項目の「大島商船インターネットテレビ」をクリックすると，インターネット TV トップページ（http://www.oshima-k.ac.jp/kitakaze/project3_shousen.php）へ移動する．現在は，大島商船高等専門学校のトップページから直接リンクが貼られている（図５）．

電子情報実験室（北風研究室）のホームページは，php プログラムによって作成されており，管理者モードでログインすれば，ブログをアップロードする形で，文章情報をアップロード可能となっている．しかしながら，インターネットテレビのような動画はデータサイズが大きくなるために，この方法ではアップロードできないために，SCP (WinSCP)を用いて学内ファイルサーバへログインして動画をアップロードする必要がある．文章データと動画データを連結して，ホームページ上で番組が出力されるようになっている．

図５　大島商船インターネットテレビ HP
（上：本校トップページからのリンク先）
（下：インターネットテレビ表示画面）

4. 番組効果

現在までに４月から９月までの６番組が完成されており，公開されている．番組の効果についてとアクセス状況について報告する．

4．1　現在までに作成した番組について

４月から９月までに公開された番組の一覧を表３に示す．現在までに合計７番組（こんな町に住んでみたい！1 番組，こんな町に遊びに行きたい：2 番組，こんな仕事についてみたい！3 番組，特別番組 1 番組）を制作し公開を行っている．撮影場所は各グループに基本的には任せてあり，島スクエア関連はこのうち 4 番組となっている．第 1 話の番組では，島スクエアの全体像をプロジェクトリーダーに取材し，これまでの成果と今後の予定について説明を頂いた．第 2 話は島スクエアの第 1 期生の修了生であった夫妻が起業して活動している様子を撮影した．第 4 話は，島スクエアのコーディネーターであり，周防大島町の水族館と陸奥記念館の指定管理者プロジェクトマネージャーの大野圭司氏に取材を行った．第 5 話は，島スクエアの戦略委員であり，周防大島町の起業家で成功して現在数店舗ほど飲食関連の事業展開を行っている山崎浩一氏の取材である．

第 3 話と第 6 話は島スクエアとは直接関係はないが，周防大島町で UJI ターンして起業した方々がオーナーであり，現役で事業展開を行っている方々の取材である．

また，第 5 話と第 6 話の間には，本校の商船学科の卒業式が行われたので，特別番組として掲載している．

表３　公開番組表

公開日	番組名
4 月 16 日 （第 1 話）	こんな町に住んでみたい！ **島スクエアの活動について**
5 月 14 日 （第 2 話）	こんな町に遊びに行きたい！ **げんきや和（なごみ）**
6 月 15 日 （第 3 話）	こんな仕事についてみたい！ **株式会社　オレンジハウス**
7 月 15 日 （第 4 話）	こんな町に遊びに行きたい！ **なぎさ水族館・陸奥記念館**
8 月 16 日 （第 5 話）	こんな仕事についてみたい！ **お侍茶屋　彦右衛門**
9 月 18 日 （特別番組）	大島商船番組 **商船学科卒業式**
9 月 30 日 （第 6 話）	こんな仕事についてみたい！ **我が島荘**

4．2　番組の分析とアクセス数

番組のアクセス数を確認するために，平成 22 年 9 月 8 日から Google Analytics を用いて大島商

船インターネットテレビサイトに対するレポートを表示するようにした．これにより，本サイトにアクセスしたユーザの地域やサービスプロバイダ，ブラウザ，接続速度など多くの情報で分析を可能にした．

アクセス分析を行うため，9 月 8 日から 9 月 21 日までの 2 週間についてデータを調べた．分析結果を表 4 に示す．

表 4　Google Analytics による 2 週間の結果

アクセス分析項目	結果
ページビュー数	202
ユニークセッション数	113
平均ページ滞在時間	3:30
直帰率	59.74%
離脱率	47.03%

この結果，202 のページビュー数があり，113 のユニークセッション数，平均滞在時間 3 分 30 秒，直帰率 59.7%，離脱率 47.03%と言う結果となった．年間約 52 週として考えた場合，このペースで 1 年間番組を維持したら，ページビュー数で 5252 となり想定していたプレビュー数に程遠い．ユニークセッション数に限っては，固定ユーザはカウントされないことから，新規ユーザが見込めない限り，増加は見込めないと考えられる．

地域別の分析結果を表 5 に示す．

表 5　地域別の分析結果

地域	ページビュー数	ユニークセッション数	平均滞在時間
大阪	3	3	29:10
北海道	3	1	9:17
岡山	5	1	6:57
福岡	13	9	5:04
山口	150	78	3:08
島根	2	1	1:01
東京	4	3	1:04
大分	4	3	0:41
神奈川	4	3	0:14
熊本	6	3	0:13
和歌山	1	1	0:03
愛知	2	2	0:00
千葉	2	2	0:00
香川	1	1	0:00
長崎	1	1	0:00
栃木	1	1	0:00

地域としては，山口県がページビュー数で 72.26%，福岡県 6.44%，熊本県 2.97% ，岡山県 2.48%と，圧倒的に山口県および，近県からのアクセスであった（表 5）．しかし，平均滞在時間では，大阪府で 3 名の方が 29 分以上番組を鑑賞し，北海道の方も，平均滞在時間が 9 分あり，遠方の方でも番組を見て頂いていることが分かる．これは，県外の方々に周防大島町の情報発信を行えている事実であり，UJI ターン希望者の目に触れる可能性があることを示唆している．

大島商船インターネットテレビのミッションステートメントは，年間アクセス数が 50000 である．現時点の方法のままでは，アクセス数において目標をクリアすることができない．そのために，今後は，アクセス数が向上するように，番組の構成を変更する必要があると考える．現時点で考えている向上方法として考えている方法は，前半のコンピュータ部の劇を辞めて，実際にアナウンサーがレポートする形式へ変更し，周防大島町の穴場スポット紹介や郷土料理の紹介番組などを考えている．一般的に視聴率の高いとされるこれらの内容を取り入れることで，アクセス数の増加を狙う予定である．

また，口コミによってホームページのアクセス数は上昇することは知られているので，本校の授業などで学生にこのページの存在を説明していきたいと考えている．

4．3　学生の地域再生に対する意識

平成 21 年 7 月 10 日応募締め切りの「第 1 回観光甲子園」（観光甲子園大会組織委員会の主催）に大島商船インターネットテレビを担当する学生達が挑戦した．これは，地元の観光プランで日本一を競うもので，全国から 69 校が参加した．これまでの取材で培った観光業で必要な点と周防大島町の利点・欠点を考慮し，さらに大島商船高専の技術を周防大島町の観光事業に生かすことを目的として、「ソーラー櫓船でGO！金魚島巡り 2 日間」という観光プランを作成し，応募した．残念ながら予選を通過し全国大会の切符を得ることはできなかったが，応募書類が高く評価され，審査員特別賞（神戸国際観光コンベンション協会長賞）を受賞した．

平成 22 年の同大会においても，周防大島の地形を利用して若者観光客を集める「僕らのサバゲー作成 in 大島」で参加したが，残念ながら予選を通過することはできず，参加賞であるグッドプラ

ン賞に留まった.

また，徳山大学が行う農山漁村地域の活性化に向けたプラン（アイデア）を全国から公募して，優秀なプランを顕彰する「周南まちづくりコンテスト 2010」にも,「耕作放棄地の発電システム（太陽光・風力・水力）を用いた収益法」と題して参加した.

このように，大島商船インターネットテレビで地域再生のための番組を持つことで，学生は地元地域の過疎化・少子高齢化の問題意識を持つようになり，その改善方法を考える精神が養われてきた．地域活性化に対して日頃から興味を持ち，自分自身で活性化へ向けた斬新なアイデアを話題にするようにもなってきており，番組内で自分のアイデアをコメントとして紹介している.

5. 結言

本稿では，大島商船インターネットテレビの活動に至るまでの経緯について記述し，島の活性化に繋げるためにこれまでに行ってきた大島商船インターネットテレビ局の活動について記述した．この活動により，学生の地域再生に対する意識の向上と，活性化へ向けての挑戦を記した.

番組は，9 月現在までに 7 番組(6 番組と 1 特別番組)を制作し，ブログを用いて更新してきた．Google Analytics を利用することで，サイトのアクセス状況を分析した結果，山口県のアクセス数が多いが，県外からのアクセス数があり，視聴時間が長いことが明らかとなった.

今後は，UJI ターン希望者にアクセスをして頂けるように, 周防大島町人会, 周防大島町内の小・中学校同窓会，本校同窓会などに本サイトのアドレスを掲示して頂けるように交渉を行いたいと考えている.

大島商船インターネットテレビは，本校コンピュータ部学生が，本業である通常のプログラム開発を行いながら，時間の合間をぬって番組制作にとりかかるので，負担が非常に大きい．しかしながら，部長をはじめ，多くの学生が協力しながら番組を制作している．また，本校教員の学生引率や施設利用の協力があって運営が成り立っている.

「島スクエア」プロジェクトチームから番組となる取材先を紹介してもらい番組のアドバスを頂くなど，多くの協力を頂いている．学生の取材費等に関しては，西京銀行「はつらつ長州」寄附金によって支援されている．多くの人々に支えられて大島商船インターネットテレビは活動することができておりこの紙面を借りて感謝の意を表する.

参考文献

[1]北風裕教，神田全啓，大島商船と金魚島インターネット TV との連携プロジェクト，第 7 回大島商船高等専門学校　教員研究講演会論文，pp.21-22, 2008

[2]北風裕教，神田全啓，岡宅泰邦，大島商船と金魚島インターネット TV との連携プロジェクト（2），第 8 回　大島商船高等専門学校　教員研究講演会論文，pp.3-6, 2009

[3]北風裕教，宮元章，岡野内悟，岡村健史郎，岡宅泰邦，地域再生を目的とした産学官連携の活動報告，独立行政法人国立高等専門学校機構大島商船学校紀要，pp.1-10, 2009